

市民ホール基本計画市民検討委員会
市民意見とりまとめ

平成24年1月

■市民ホール基本計画市民検討委員会 市民意見とりまとめ目次

はじめに

市民ホール基本計画市民検討委員会経過

1.市民ホール整備の目的と使命

- (1)基本理念
- (2)7つの基本方針

2.事業計画

3.施設規模と機能及び概要

(1)各機能の概要

- ①大ホール系機能
- ②小ホール系機能
- ③展示系機能
- ④創造系機能
- ⑤支援系機能
- ⑥交流系機能
- ⑦管理機能
- ⑧その他機能

(2)施設規模

(3)留意事項

- ①防災
- ②省エネ
- ③ユニバーサルデザイン
- ④景観
- ⑤前庭

4.運営組織

- (1)想定される組織概要
- (2)管理運営母体の考え方
- (3)市民協働組織の考え方
- (4)運営

5.敷地条件

6.課題・その他意見

7.むすびに

(1)振り返りによる考え方の変化等

(2)振り返りによる意見等

8.関連資料(ワークショップかわら版)

はじめに

市民ホール基本計画市民検討委員会は、市民ホール基本計画の策定に向けた検討を目的とし、公募による市民51名により組織され、平成23年6月から2回のレクチャー研修会、6回の市民検討委員会ワークショップ（「オリエンテーション＋基本構想のふりかえり」、「市民ホールに期待される事業・活動を考える！」、「市民ホールに求められる諸室や機能を考える①②③」、「市民ホール 運営や組織を考える」）、市民会館を検証するワークショップ、富士見市民文化会館☆ふじみの視察の計10回の活動を行ってまいりました。

本市民意見とりまとめは、市民検討委員会の活動の成果として、これまでの検討の中で述べられた意見を集約したものであり、この意見を基に市民ホール基本計画策定専門委員会において議論が重ねられております。引き続き、この意見を基に市民ホール基本計画を策定してまいります。

なお、活動状況が分かるようにワークショップかわら版を関連資料として加えました。

市民ホール基本計画市民検討委員会経過

1 市民ホール整備レクチャー研修会の開催経過

(1)第1回市民ホール整備レクチャー研修会

開催日時：平成23年6月18日（土）午後1時から4時まで

開催場所：小田原市保健センター3階 大研修室

参加者：73名

[パネリスト（敬称略）]

氏名	専門分野	所属等
桧森 隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／文化政策・アートマネジメント 市民ホール基本計画策定専門委員会委員長
勝又 英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学 市民ホール基本計画策定専門委員会副委員長
市来邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長／せたがや文化財団 市民ホール基本計画策定専門委員会委員
三ツ山一志	展示系	横浜市民ギャラリーあざみ野館長／横浜市芸術文化振興財団 市民ホール基本計画策定専門委員会委員
間瀬 勝一	文化施設運営 舞台制作	逗子文化プラザホール館長 全国公立文化施設協会アドバイザー

(2)第2回市民ホール整備レクチャー研修会

開催日時：平成23年6月26日（日）午後1時から4時まで

開催場所：小田原市役所7階 大会議室

参加者：59名

[パネリスト（敬称略）]

氏名	専門分野	所属等
桧森 隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／文化政策・アートマネジメント 市民ホール基本計画策定専門委員会委員長
勝又 英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学 市民ホール基本計画策定専門委員会副委員長
桑谷 哲男	ホール管理運営	座・高円寺支配人／NPO 法人劇場創造ネットワーク事務局長 市民ホール基本計画策定専門委員会委員
蔭山 陽太	劇場管理運営	神奈川芸術劇場 KAAT 支配人
伊藤由貴子	音楽ホール管理 運営	神奈川県立音楽堂館長 市民ホール基本計画策定専門委員会委員

2 市民ホール基本計画市民検討委員会の開催経過

(1)第1回市民検討委員会

開催日時：平成23年7月17日（日）午前10時から12時30分まで

開催場所：小田原市役所7階 大会議室

参加者：市民検討委員41名

テーマ：「オリエンテーション+基本構想のふりかえり」

[専門委員参加者（敬称略）]

氏名	専門分野	所属等
桧森 隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／文化政策・アートマネジメント 市民ホール基本計画策定専門委員会委員長
市来邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長／せたがや文化財団

(2)市民会館を検証するワークショップ

開催日時：平成23年7月31日（日）午後1時から5時まで

開催場所：小田原市民会館

参加者：26名

内容：「市民会館バックステージツアー」、「市民会館を検証するワークショップ」

[講師（敬称略）]

氏名	専門分野	所属等
市来 邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長／せたがや文化財団 市民ホール基本計画策定専門委員会委員
草加 叔也	劇場コンサルタント	空間創造研究所代表／文化庁芸術文化活動支援員

(3)先進事例視察

開催日時：平成23年8月8日（月）午後1時から3時30分まで

視察箇所：富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

参加者：28名

内容：「施設内視察」、「質疑応答」

[講師（敬称略）]

氏名	専門分野	所属等
勝又 英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学
近江 哲朗	劇場コンサルタント	A. T. Network 代表

(4)第2回市民検討委員会

開催日時：平成23年8月21日（日）午前10時から12時30分まで

開催場所：小田原市役所7階 大会議室

参加者：市民検討委員39名

テーマ：「市民ホールに期待される事業・活動を考える！」

[専門委員参加者（敬称略）]

氏名	専門分野	所属等
桑谷 哲男	ホール管理運営	座・高円寺支配人／NPO 法人劇場創造ネットワーク事務局長
三ツ山 一志	展示ホール管理運営	横浜市民ギャラリーあざみ野 館長
伊藤 由貴子	音楽ホール管理運営	神奈川県立音楽堂館長

(5)第3回市民検討委員会(ワークショップ)

開催日時：平成23年9月19日（月・祝）午前10時から午後1時まで

開催場所：小田原市役所7階 大会議室

参加者：市民検討委員41名 + 障がい者の団体の方5名

テ ー マ：「市民ホールに求められる諸室や機能を考える（１）」

～大ホール、小ホール、ユニバーサルデザイン～

[専門委員参加者（敬称略）]

氏 名	専門分野	所属等
市来邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長／せたがや文化財団
勝又 英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学

(6)第4回市民検討委員会(ワークショップ)

開催日時：平成 23 年 10 月 9 日（日）午前 10 時から午後 1 時まで

開催場所：小田原市役所 7 階 大会議室

参加者：市民検討委員 36 名

テ ー マ：「市民ホールに求められる諸室や機能を考える（２）」

～小ホール、展示室等～

[専門委員参加者（敬称略）]

氏 名	専門分野	所属等
桑谷 哲男	ホール管理運営	座・高円寺支配人／NPO 法人劇場創造ネットワーク事務局長
三ツ山 一志	展示ホール管理運営	横浜市民ギャラリーあざみ野 館長

(7)第5回市民検討委員会(ワークショップ)

開催日時：平成 23 年 10 月 23 日（日）午前 10 時から午後 1 時まで

開催場所：小田原市役所 7 階 大会議室

参加者：市民検討委員 33 名

テ ー マ：「市民ホールに求められる諸室や機能を考える（３）」

～交流系機能、創造系機能、支援系機能、その他機能～

[専門委員参加者（敬称略）]

氏 名	専門分野	所属等
桧森 隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／文化政策・アートマネジメント 市民ホール基本計画策定専門委員会委員長
伊藤 由貴子	音楽ホール管理運営	神奈川県立音楽堂館長
勝又 英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学

(8)第6回市民検討委員会(ワークショップ)

開催日時：平成 23 年 11 月 6 日（日）午前 10 時から午後 1 時まで

開催場所：小田原市役所 7 階 大会議室

参加者：市民検討委員 27 名

テ ー マ：「市民ホール・運営や組織を考える！」

～運営管理、市民参加、景観等～

[専門委員参加者（敬称略）]

氏 名	専門分野	所属等
桑谷 哲男	ホール管理運営	座・高円寺支配人／NPO 法人劇場創造ネットワーク事務局長

1.市民ホール整備の目的と使命

(1)基本理念

【基本構想】

- ①「そだてる(育成普及)」
- ②「感動する(鑑賞事業)」
- ③「つくりあげる(創造参加)」
- ④「つどい交流する(施設運営)」

- ・市の文化事業の戦略が最重要
- ・プロモーション/市からの情報をもっと「発信する」ことが必要
- ・子供や青少年などでこれまで芸術に関わりのなかった人などに、豊かさを伝えられたらいい
- ・文化創造センターとしての整備・ネーミング
- ・理想的だが現状の小田原市民にはハードルがやや高い
- ・文化って何？小田原市は本当に歴史を大切にしているか/小田原の何かがある
- ・日常→文化空間への切り替え、余韻を楽しんでから再び日常へ戻るアクセス

(2)7つの基本方針

【基本構想】

- ①そだてる…育成普及～地域文化の足腰を強くする～
- ②たのしむ…質の高い催し～創造性を刺激する～
- ③つくる…市民参加～創造の輪を拡げる～
- ④つたえる…地域特性の発信～小田原の魅力をつたえる～
- ⑤出会う…交流促進～共感するよこび～
- ⑥にぎわう…にぎわい創出～催し物がなくても立寄れる～
- ⑦ひろげる…利用促進～稼働率の高い施設～

【①そだてる】

- ・育てる・つどい交流 に賛同
- ・①③、今までに子供から大人まで一緒に作りあげるものが無かった
- ・今からスタートが必要/誰が育てるか/子どもの教育
- ・小田原で大きなイベントを組むことより、機会が増えていく参加者が増える
- ・人材（市民）を育てるアートマネジメント講座
- ・ホールを動かす為に市民の中からプロを育てる/プロ育成事業
- ・子ども舞台教室
- ・伝統芸能や民俗芸能のワークショップや定期的継承会
- ・学校教育での美術・音楽をホールで

- ・親子でたのしめる舞台/子どもと親とのふれあいコンサート/本物の鑑賞/子ども(親子)のための企画・音楽・劇など
- ・オペラやミュージカルのワークショップ ①子ども向け ②異世代間交流型
- ・子ども達を巻き込める企画
- ・マナー教育と日常性の両立
- ・子どもの学ぶ空間としての音楽研究施設
- ・アウトリーチで育てる
- ・子ども対象ワークショップ
- ・子ども達が体を動かして楽しめるもの(工作・ダンス・コーラス・劇など)/子どもが遊びながら創造できるような場所
- ・今から準備する
- ・地域市民の文化に関する意識向上/人に投資する時代/人材の掘り起こし
- ・文化活動を行う方(団体)をコーディネートする人材の育成/ワークショップのための人材バンクを構築する事業
- ・運営チームによるプロデュース公演
- ・技術の継承や後継者の育成事業/育成ワークショップ付き展示/無料の音楽教室
- ・子供むけの企画を定期的に行う。クラシック、音楽、劇など
- ・子ども達を大切にイベントワークショップ
- ・地元縁の人材/かくれた人材の発掘/人材活動を活性化/育成するための人材/舞台技術に関する人材育成
- ・音楽フェスティバル/若いアーティストのデザインフェスタ/POPS系のコンテスト/新人音楽家→入賞者にモーニングコンサートなどに協力してもらう
- ・演劇、音楽、アートそれぞれの味方、魅力を勉強する講座、観客のレベルが高いと企画のレベルも高くなる/劇場の原点であるギリシャ、シェイクスピアの解説講座
- ・よさこい(えっさホイ)/メディア/コンテンポラリーダンス/花火/「千人太鼓」

【②たのしむ】

- ・②「たのしむ」はもう一步高い「感動する」にしたい
- ・演劇・音楽・美術(たのしむ)/本物を見て感動する/有名アーティストのコンサート/TVの公開番組/東京・横浜へ行くよりも割安感の演奏会/アコースティックコンサート/楽しむだけでなく楽しませるエンタテインメント/テント公演
- ・商業演劇の招へい/歌舞伎・バレエ・ミュージカル・オペラ等
- ・バリアフリー上映/16mm映画館/映画祭/ロードショーに係らないが良い映画
- ・映像を使った作品上演
- ・映像で公演記録“皆で何かつくりたい”/映像関連ワークショップ
- ・小田原鉄道文化祭/バリアフリー観劇堂/ギャラリートーク
- ・コンテンポラリーダンス
- ・映画会を行いたい

【③つくる】

- ・①③、今までに子供から大人まで一緒に作りあげるものが無かった
- ・地元の音楽家・出身者による演奏会/小田原出身の文化人、有名人のピックアップ・大藤信郎、川崎、居崎、首藤、北原白秋 etc
- ・ガンプラジオラマ風 ガンダムでの興しを
- ・小田原の地区の芸能のワークショップ/相模人形芝居普及/北条たいこの部/えっさホイ
- ・様々なシチュエーションでの映画上映(銅門、梅林、浜)/木の町小田原コンサート(木の文化大集合)/星空コンサート/ビーチコンサート(みゆきヶ浜)+南風(ホール)コンサート
- ・市民オペラ(実現のためのワークショップ)/市民ミュージカル
- ・市民参加事業/市民の創造演劇とか、音楽祭などが生まれると楽しい
- ・自主企画展覧会の開催(小田原ゆかりの作家)
- ・小ホール機能の充実
- ・誰でも使える舞台 高齢者・障がい者/市民が広く参加できるイベント/市民サークル作品展
- ・小田原の食を利用した大人の調理実習
- ・「アート・イン・レジデンス」小田原周辺の良い環境を活かし滞在型でアートを産み出す
- ・発表をバックアップ

【④つたえる】

- ・相模人形芝居下中座/民俗芸能(40団体ものお囃子)/こゆるぎの人形の製作/江戸町文化 総合文化祭/異世代交流
- ・小田原風鈴、ちょうちん、いもの箱根細工 小田原彫り etc
- ・ホールでやっていることを伝える広報誌/外へ伝える広報の工夫/生活文化の発信、芸術文化の発信等インターネットのサービス
- ・ふるさとの映像を残していくアーカイブ/図書館業務とつないだアーカイブ/コンサートのCD・DVD化/市民・文化欲求のデータベース/
- ・映像のワークショップ
- ・相模人形芝居の普及

【⑤出会う】

- ・ホールと名建築をコラボした企画(古希亭 清閑亭 文学館 老夢壮 松司記念館)
- ・異分野とのコラボ/ジャンル横断
- ・他地域、他館との共同制作
- ・市内施設のネットワーク構築、施設の有効活用/小田原周辺美術館、箱根、湯河原既存施設の活用
- ・憩いの広場/ハロウィーンやクリスマスパーティー/若手アーティストが常に集っているコーナー
- ・作家とのワークショップ

【⑥にぎわう】

- ・若手アーティスト達が集うコーナー・子どもたちがいつも集うコーナー
- ・サロンコンサート/モーニングコンサート/昼間のコンサート/レセプション/ティータイム/アフタヌーンタイム/イブニングタイムコンサート/定期的なワークショップ
- ・市民が気軽に使えるスタジオの併設/若者が使える自由な空間/子どもが気軽に立ち寄れる場友人を作るスタートの場
- ・中高生がいつもたまる仕掛け
- ・「バンド」集まれ！！企画/小田原おじさん（ロカビリーフォーク etc）大集合/町内会対抗コンサート+一流アーティスト
- ・全国規模の公募展/写真展/各種巡回展/個人の作家展/現代アート展/若い人対象のアンデパンダン展
- ・子育て世代/ゆとり世代
- ・本物で感動するもの
- ・和と洋のうわさになるくらい美味しいお店/コミュニティカフェ、地産地消カフェ、小田原ならではのひとやすみ所
- ・住時の商工祭、ちょうちん祭の復活、それにともなう製作活動/町全体で住時のにぎわいを取り戻したい（商工等）/地元の商店街とのをつなげる事業・食・大道芸
- ・造形マーケット/地域作家を広報するミュージアムショップ
- ・①商店にアートを飾る、アートで人と地域をつなぐ ②マップ等によりイベント化する/近隣商店街と連携したコンサート
- ・ホール・展示場・商店街とのタイアップ、活性化
- ・市民文化祭/市民発表会
- ・日常的に行われる事業

【⑦ひろげる】

- ・文楽地方公演
- ・子どもとの距離を近く
- ・文化活動団体の連携強化/市文連
- ・市民ホールサポーター/ホールだより/企画/NP/市民・活動サポートセンター/市民が主体的に考え利用できる
- ・街のギャラリーとの連携
- ・活動団体のステップアップ
- ・学校など教育現場との連携・つながり
- ・文化団体との連携
- ・2市8町の国際交流団体をまとめるきっかけ/国際交流も文化
- ・市内の文化活動を市広報でPR/現在市民会館で行っている演目がわからない/市民ホールのPR
- ・文化芸術への関心層を広げていく/文化を人ごとにしな

【その他】

- ・土日仕事の人も楽しめる企画
- ・外から見えるようなギャラリー/展示室、芸術、美術
- ・市民がホールに関心をもつ企画を長期的に立案する/演者の来場のみでない誰でも足が向く施設と企画/現在あるイベントを利用する
- ・市民が使いやすい練習室、スタジオ（バンドの練習、ダンスの練習など）
- ・ホール予定地をアートと花でうめつくそう/お城をアートと音楽でうめよう
- ・地域の人とかかわってこの委員会でイベントをする
- ・超未来は読めないが近未来での小田原市民が何を（音楽・演劇・様々なイベント）望んでいるのか知る必要あり。
- ・音楽ホール、演劇場、アートギャラリーなど望むものがバラバラで計画の骨格が見えない/小田原にこれからも必要な文化を育てるステー/オペラが上演できる音響の良いホール
- ・落ちついた町/ものづくり/都/宝が隠れてる/無尽蔵 ・二宮草原
- ・“小田原”という文字を入れる/文化創造センター
- ・おだわらウメ子ホール/おだわらウメ子館/おだわら市民ホール「光未来」/おだわら夢ホール
- ・事業を行うためには予算が必要
- ・シルバー人材卒業生の活用・活性化/高齢者へ PR、平日動員策
- ・市民、学校職員のネタ集めの場所へ
- ・稼働率の高い施設の活用
- ・事業の継続性/良い物を継続していく姿勢
- ・ホールで“何をするのか”少し漠然としている

2.事業計画

- ・ホールにとどまらず、街へとあふれる意識/「まちへとあふれる」はいいこと
- ・多くの人が集まる企画/名画鑑賞会/本物を見る/鑑賞のポイント/トークギャラリー
- ・市民に使い方がわかるよう紹介する場/機能の紹介
- ・会館に魅力を感じる企画
- ・ホールオープンのイベントは今から準備すればいろいろできる。

3.施設規模と機能及び概要

(1)各機能の概要

①大ホール系機能

【全体】

- ・バックヤードの充実（ホール規模は小さくてもよい）/楽屋とステージのスムーズな行き来/動線への配慮
- ・ロック・ポップス・ジャズなど、メジャーどころのコンサートを小田原で行いたい
- ・市民ミュージカルなどを行いたい
- ・大ホールは搬入しやすく、スタッフの体力を損なわないホールそし、使いやすさと音の良さで日本一のホールをつくりたい
- ・多目的なホール
- ・プロセニウム形式の舞台
- ・オーケストラピットは、整備コストを踏まえた検討が必要である
- ・シンプルで使いやすいホール計画とする
- ・小田原にいいホールがないために、音楽のすばらしさに気付いていないと思う良さを伝えられるホールが出来ればいい
- ・大ホールは講演会などの利用も多い
- ・色々な催しに利用したい
- ・入場料金がとれる事業がしたい

【舞台】

- ・舞台設備については、様々な意見がだされた
- ・照明・音響・舞台機構等の充実/スクリーンの設置
- ・大ホールの舞台について、ミュージカルなどのことを考えると、間口10間、奥行5間などが必要
- ・間口は8~10間、上手・下手の袖は4~5間、奥行は6~8間程度を想定してはどうか
- ・手引きバトンと電動バトンについて要検討の必要がある
- ・専門委員会では、大ホール間口を6間に可変し、そこで行うことも提案されていたが、小田原には300名程度のバレエの需要は凄く多い
- ・舞台の設備として字幕スーパーが必要である

【客席】

- ・客席、1,000～1,200席で、500席や700席といったように、中ホール規模のホールとしても利用できるようにしてほしい
- ・車椅子席が客席の端に追いやられないようにしてほしい
- ・ホールのドアの側に、スタッフが座れる収納式の椅子を付けてほしい
- ・どこの席からも観やすい客席構造を検討する
- ・神奈川芸術劇場の3階席は怖かったので2階席までとし、多層バルコニーは防災上の観点からも避けたい
- ・座席の前後左右をゆったりととり、高級感のあるものにしてほしい
- ・座席はメンテナンスの行いやすいものにしてほしい
- ・サイトラインに配慮し、千鳥配置を検討する
- ・車椅子席、ベビーカー置き場をしっかりと取ってほしい
- ・バルコニー席を設けてほしい
- ・オーケストラピットが必要である

【その他】

- ・小さい用地に大ホールは必要か
- ・にぎわい創出の為？
- ・音楽の活動場所/吹奏楽コンクールの県西予選会
- ・音楽と演劇の両立
- ・子どもが泣いても気にならない部屋、別の空間で親子で鑑賞できる親子室が欲しい。親子だけではなく、障がい者の方なども利用できたらいいのではないか
- ・舞台裏に使いやすい通路を整備する
- ・映像設備もほしい
- ・音響設備の周波数についても十分に検討すること
- ・大ホールに附属する練習室がほしい
- ・内装は木を使用したい。寄木細工も取り入れていきたい
- ・完璧なオペラが上演できるような設備が欲しい
- ・ホールの建築音響の考え方、音響設備だけでは解決できない。特に冬場の厚着はタブーなので、クロークをしっかりと整備してほしい

②小ホール系機能

【全体】

- ・多目的、平床式、展示できるように/展示室と小ホールは共有できるのではないか
- ・音楽・展示は両立させると中途半端にならないか
- ・本格的な演奏、演劇を主とした小ホール
- ・小ホールについては二宮のラディアンが音響がいいのではないかと参考にしてほしい
- ・小ホールについては班の中でも大変もめた

- ・南足柄はあまりいい小ホールではないが、稼働率が70%を超えている。小田原に音のいいホールをつくるともっと利用率が上がるのではないか
- ・特に、小田原ではピアノや歌を行っている先生が多いので、音にこだわったホールとしたい
- ・小ホールは音に特化した、日本一のホールを目指したい
- ・是非、全国に誇れ、近隣の人が使え、料金も安い、固定椅子を備えた小ホールをお願いしたい
- ・小ホールは良い音が出せる、演劇、音楽兼用の小ホールがよい。小ホールを使いたいが、これまでなくて市外で活動している団体が多いので、そういった人たちの意見も聞いて欲しい
- ・他班の意見を聞いていると、小ホールは多目的でまとまってきているように思う
- ・小ホールにも防音で音出しができる部屋が必要ではないか
- ・小ホールは音楽寄りの多目的ホールという方向でまとまった
- ・小ホールの基本的な設備は、大ホールと同じように計画する
- ・市民参加、幼稚園、小・中学校の利用、えっさほいの練習、発表会など子どもをメインとした活動を色々やって欲しい
- ・子どもたちが本物を鑑賞できる事業を行ないたい。小規模でも音楽会、演劇会、映画会を行いたい
- ・大ホールでは行えないような小編成のジャンルを問わないコンサート、良質のものを上演して欲しい
- ・自分が劇団を主宰しているので、芝居小屋をイメージしている。現在は横浜や下北沢を利用するしかないので、小田原にその空間が欲しい
- ・外国の文化を発表したい
- ・子供達に古典芸能を鑑賞させる機会を設ける
- ・小ホールは演劇と音楽の両方に利用できる多目的とする。今の技術があれば音楽と演劇両方の機能が担保できるので、そこは専門家に任せ、どう使うかは市民が頑張る

【客席】

- ・固定客席にするか平土間にするかで意見がまとまらなかった
- ・演劇・音楽・ダンスなど様々なジャンルの人が使えるので平土間の方が良いのではないかという意見がでたが、固定式の方が良いという意見もあった。
- ・小ホールは固定席の多目的ホールとする
- ・平土間と固定客席で意見が分かれた
- ・展示との共用は認めたくない
- ・固定式の多目的ホールと平土間のホールで意見が分かれている
- ・音楽あるいは演劇のためのホールかで意見が分かれている
- ・音楽用になると演劇用の舞台設備が制約され、音楽用になると台詞の明瞭度が制約される
- ・多目的にした場合、演劇・音楽共に制約される

- ・固定席か平土間かで意見が分かれた
- ・固定席であれば、県西地区に固定席で充実したホールがないので、稼働率が上がるのではないか
- ・小ホールを平土間にするか固定客席にするかということで非常にもめたが、平土間として利用できる別のスペース（マルチスペース＝多目的ホール）を確保することで意見がまとまった
- ・小ホールを固定にするのであれば、プラスで 300 m²程度のマルチスペース（多目的ホール）を設置することで対応する。また展示系の催しであれば、展示系機能とマルチスペースを両方使うことや演劇・音楽系の催しのリハーサル場として利用できる
- ・大ホール、固定席の小ホール、展示機能に加えてマルチスペースが必要なのではないか
- ・小ホールは固定席で造る。その対案としてマルチスペースをつくることで、リハーサルや展示など小ホールを平土間で使いたいという用途に対応する

<固定席>

- ・固定客席と平土間のふたつの選択肢があり、どちらかだけとは決められない
- ・固定席と平土間・ロールバック式の2つを造ればいい
- ・音楽系の固定客席のホールと、平土間のホールで方向性をわけて整備する
- ・藤沢市以西に固定椅子を持つ本格的な小ホールをもった公立ホールがない
- ・平土間のホールは多くあるが、近隣の公立ホールに固定客席の小ホールがなく、整備すべき
- ・ロールバックが嫌な意見として、歩くと音がする、可動式は使い勝手が悪い、座り心地が悪い、足音が響く、すきまが危険、落ち着かない、咳やくしゃみをしただけで椅子が揺れる、メンテナンス費用がかかるといったことが上げられた
- ・ロールバックの客席に不満を持つ方や団体は少なくない
- ・固定椅子で、音に特化した小ホール。市内では演劇よりも音楽の利用が多いと感じる
- ・小ホールは市民利用が多くなるので、200～300席の音響の良い固定式が、市民にとっては一番利用しやすいのではないか
- ・使い勝手第一で、日本一を目指したい

<平土間>

- ・大ホールの主舞台と同じ床面積を確保し、リハーサル室としても使用する。防音性能が必要なので、地下の有効利用も考える
- ・リハーサルや様々な催し物にも使用できるマルチな機能を備えた部屋を整備する
- ・高さは4m、ライティング設備も欲しい。また、ステージの位置を自由に変えられたり、youtubeを利用できたり、様々なことが行なえ、若者による新しく多様な活動にも対応でき、将来的に考えられる様々なイベントに耐えうるものにしたい。
- ・特に、若者が自由な発想で活用できるスペースにしたい

- ・平土間で行いたいような催し物は、リハーサル室のひとつを広く造り、そこで行えるようにする
- ・平土間も捨てがたい。大ホールの主舞台と同じ床面積のリハーサル室が欲しいという意見があり、それを第2小ホールとし、平土間で200～300席の様々な活動ができるマルチスペースとして計画する
- ・平土間のホールは、色んな若い人たちが新しいことをできるようなホールとしたい
- ・平戸間にこだわらずホールにもできる可動的な物/多様性
- ・可動にして稽古場が欲しい
- ・平土間にした場合、展示用の特別な設備は不要だが、展示にも利用できるように考える
- ・平土間にして様々な活動が行なわれることや様々な分野の団体が利用できるようにするのも大事だと思う。展示に特化したい団体、大ホールに特化したい団体、小ホールに特化したい団体などがあるので、どのように特化したいかということについても譲りあっていくことを考えていきたい
- ・音響的には平土間形式の方がよいという意見もあった
- ・平土間、ひな壇の運び込み、壁にカーテン、暗幕という意見もあった

【その他】

- ・中ホールが欲しい
- ・舞台裏に使いやすい通路を整備する
- ・市内の施設との機能分担を考える必要がある

※大小ホール附属施設

<楽屋>

- ・和室を1室整備して欲しい
- ・楽屋の隣に練習室を造って欲しい
- ・舞台モニターを設置してほしい
- ・大ホール、小ホール専用の楽屋が必要である
- ・シャワー室も整備する
- ・近代的な楽屋が必要である
- ・楽屋周りにピアノ付きで音だしが可能な楽屋が欲しい
- ・和室楽屋、シャワー室、練習室がほしい

<トイレ>

- ・女性トイレを多く造りたい。男性トイレよりも多めに造ってほしい
- ・女性トイレには節水の為に音姫を備え付けて欲しい
- ・女性トイレの個数は多く整備する

<搬入>

- ・展示室のバックスペース、入口の反対側に搬入車両が寄り付ける搬入口を造って欲しい。展示台など重いものの搬入も考えられる

- ・舞台後方からの搬入ができるようにしたい

<ロビー>

- ・ロビー・ホワイエの居心地を良くし、社交場としての機能を大切にしたい。
愛を語れるスペース、誰でも利用できる憩いのスペースがあればなお良い
- ・ホール・ロビーは、美しくゴージャスにしたい

③展示系機能

- ・ガラス張りにし、アーティストの作品展示場に
- ・市民ギャラリー
- ・常設会場
- ・400 m²以上/保管庫/十分な高さ
- ・小田原という地域を発信できる全国規模の公募展など、有料の展示もどんどん行っていいかどうか
- ・展示室はフラットな空間なので、展示だけではなくワークショップなどでも活用してはどうか
- ・可動パネルは、簡単に移動ができるものがよい
- ・天井高は4mがベストではないか
- ・華道展示などを考えると展示室のバックスペースには必ず水場を造ってほしい
- ・使い方によればお茶などもできるだろう。そのための水場を造ってほしい
- ・野外を利用して展示を行ったり、様々な利用ができる仕組みをつくっていききたい
- ・展示室は展示専門としたい。展示室の隣に小ホールとしてマルチなホールがあれば嬉しい。200 m²位の大きさが良いのではないか
- ・展示会と並行してワークショップを行い、市民を呼び込んでいきたい
- ・シンプルでパーテーションで区画できるようにしたい
- ・大きな作品もあるので、そのことに配慮した搬入口とバックヤードが必要である
- ・天井にものを直接吊れる構造と設備が必要である
- ・展示壁には直接ピンが刺せれる仕様が必要である
- ・現代アートの展示も考え、電気設備等も整備する
- ・電気設備等の増設が後からできるように配慮したい
- ・他の機能の併用は考えなければならないが、会議室等との併用はやめるべきである
- ・搬入動線と観客動線が重ならないように配慮する
- ・高さは高く、広いほうが良い
- ・控えや水場は別途設けるのではなく、区切って使えるようにどこかに込んでも良いのではないか。全体で面積は400 m²程度は必要。市の主催する展示会などのように大きい作品がメインなのか、サークルなどの市民活動の作品展示がメインなのかで違ってくる
- ・区切るとしたら、ドアが2つありでどちらからも入れるようになると良い
- ・神奈川県立美術館の巡回展、小田原ゆかりの作家の展覧会、学校の書道や小田原ちようちんの展示などを行いたい

- ・展示物のサイズを問わず、良い照明環境が必要。天井全体がやわらかい照明が理想的である。スポットは移動式とする
- ・平面作品用の展示パネルは、上質のもので長く使用できるものが良い
- ・様々な展示に対応できる展示壁を採用して欲しい
- ・天井高について、平塚美術館程度の高さがあるとよい
- ・床、壁は汚れに強い素材を使って欲しい
- ・展示スペースでも、演劇・音楽などを発表できる工夫をして欲しい
- ・本当は小田原に美術館が欲しい
- ・400 m²の展示スペースができれば、美術館でやるようないい展覧会ができると思う
- ・学芸員において、年間で自主企画を行ってほしい
- ・展示室は展示に特化したものにする。展示スペース 400 m²+バックヤード 200 m²を確保すべきという条件で施設を考えた
- ・小田原では年1回大きな展示が必要となる期間がある。しかし2つに区切って使うのでは400 m²では十分ではない。基本的にはリハーサル室で、その時を含め年に何回かは、リハーサル室兼マルチスペースを展示に使いたい
- ・トークショー、参加型ワークショップなど、いつも何か展示されていていきたくなる様な催しがある展示室としたい
- ・現代アートの魅力に触れるイベントを開きたい
- ・大ホールに付随したロビー、けやきの展示室を利用するという案もでた
- ・インターネットの配線、ワークショップスペース、図書館機能、水場、作品保護の空調・照明設備、ミュージアムショップが必要である
- ・天井の高さは4m必要
- ・展示スペースのバックヤードは、展示台や機材を収納するために200 m²必要。展示室 400 m²+バックヤード 200 m²を確保したい

④創造系機能

- ・楽屋の隣に練習室を造って欲しい
- ・リハーサル室は大ホールを利用する時にウォーミングアップができるスペース。声出しや音出しができ、大人数の際には楽屋にもなり、楽器も置いておけるなどの多様性を持たせる
- ・それぞれの室に固定的な名称をつけると、固定観念から用途が狭められてしまう可能性があるのでは、あまり捕らわれない方がいいのではないか
- ・リハーサルルームなど、兼用にしすぎると使いく、音漏れも嫌煙される。そこが解決できるのであれば機能を兼ねても良いと思う
- ・リハーサル室もマルチスペースであるが、演劇公演も可能な設備を備えるということ意見がまとまった。基本的には平土間だが、客席はローズバックとするかスタッピングチェアで対応するかの結論は出ていない
- ・大ホール・小ホールに付属して、当日の音合わせ用にリハーサル室があったほうがよい
- ・広さは120 m²と書いてあるが、どのくらいが適当かはまだ分からない

- ・防音の練習室、スタジオが欲しいといっているが、本番前に声出し、音出しができるリハーサル室が必要という意味
- ・練習室がほしい
- ・リハーサルができるような練習室がほしい
- ・マルチホールを整備してほしい。ここでは、利用形態に応じて公演も行えるようにしたい
- ・マルチスペースは飲食、音楽、展示も含めた交流に使えたらよいと思うので、平土間で広さ 300 m²程度、大ホール主舞台の大きさ程度を確保したい
- ・マルチスペースは大ホールの主舞台と同じ程度の大きさを確保する。飲食、創造、アートなど市民が何をしてもいい、汚してもよい場が欲しいという意味。尚かつ、大ホールの舞台上演することをこの場で練習出来るようにしたい
- ・マルチスペースの防音はある程度で良いと思う
- ・スペースに余裕があれば欲しいが、管理が難しいので無くて良いのではないか。学生の利用が中心であれば、平日の昼間は稼働しない
- ・本番使用のリハーサル室よりも、本番前に声だし、音出しができるリハーサル室が必要
- ・若い人たちが使える、演劇や音楽、バンドの練習のできるスタジオ機能は4部屋程度整備したい
- ・防音の練習室、スタジオというのは、キラリ☆ふじみをイメージしている。音が出せる練習ができる小さなスタジオのこと
- ・練習場機能あれば事業がないときでも人が集まる
- ・リハーサルスタジオ/稽古場
- ・練習場がないと居酒屋がもうからない/下北沢的イメージ
- ・創造活動に施設を利用した市民ってどれくらいいるのだろうか/どんな創造活動に使いたいのか
- ・アトリエ作業ができる場所、造りかけのものを保管できる場所があるといいのではないか
- ・ワークショップができる工作室などのスペースが隣にあるといいのではないか
- ・創造系施設は施設の中で完結するのではなく、外に活動がしみ出るようにして欲しい。通りに賑わいをみせることで可能性が広がっていく

⑤支援系機能

- ・託児室を造ってほしい。空間を作るだけでなく、子どもが泣いても外に音が漏れない遮音性能や裸足で歩けるような安全性を確保して欲しい
- ・託児が必要な事業が行われるかどうかは今後の事業の在り方次第なので、まずは託児室として使用できるスペースは確保しておく必要がある
- ・託児室は、誰が責任を持って運営するのかという課題がある。何か起こったときに客席内にいる保護者を呼ぶ手段も検討していかなければならない
- ・託児室は必要ではあるが、用途を限定してしまう室が必要かどうかは検討すべき

- ・託児室、キッズスペースが欲しかったという声が多かった。大ホール・小ホールにひとつずつあれば良いのではないか。子どもの声がホールに聞こえないように、カフェなどの交流系機能の近くにまとめればよいのではないか
- ・市民活動サポートセンターの機能を入れ、打合せや会議などのワークスペースとして利用できる場所がほしい

⑥交流系機能

- ・イベントがない時も気軽に子どもがあつまれるよう
- ・逗子文化ホールのように、子供が気軽に自由に入出りできる空間に（常ににぎやかで良い）
- ・平日のにぎわいが欲しい/平日でも寄ってみたい場所
- ・気軽に子供から老人がその場所に集える
- ・情報、人、コト etc が集まる。発信する。INPUT&OUTPUT
- ・10代20代が興味を持ちやすいホール機能/児童館のように子供たちが自由に遊べる空間
- ・オープンロビーで低料金で販売に利用できるスペース
- ・自由に使えるスペース（多目的）展示、発表、音楽など
- ・国際交流スペースとして50人以上が入れる場所
- ・観光客の立ち寄り所に！歴史・物産の紹介の場も
- ・情報発信 spot/ミニFM/イベント告知スペース
- ・オープンカフェは欲しい/ホールを利用した前・後に使いたい/昼間の利用に良い
- ・ホールにcaféを作るより商店街へ流動を
- ・小田原城跡をみられるおしゃれな茶屋/カフェの充実/コミュニティカフェ
- ・地産カフェレストラン、あじ、かまぼこ、レモン、みかん、うめ等。小田原の職を伝えられる機能
- ・“地産地消”でなくても良い！
- ・愛が語れるような素敵な喫茶店が欲しい
- ・カフェや交流サロンなど市民が交流できる空間を計画する
- ・50席～100席程度のカフェが欲しい
- ・ミュージアムショップが欲しい
- ・カフェの話が多く出た。小田原市内にはレストランなどはあるが、カフェは少ない。演劇の台本をその場で読めたりアーカイブを見れたり、オープンカフェとしてロビーと近い距離に置き、オープンライブを行ったりできればよい
- ・広場にオープンカフェがでるといい
- ・あまりお金をかけずに文化に触れられるスペースがほしい

⑦管理機能

<全体>

- ・中継地点”でないインフラ
- ・平日親子のつどえる場に（託児室）

<駐車場>

- ・一般観客用にはいないという意見が多かった
- ・利用者が搬入物を安全に簡便に降ろすことのできる車寄せのスペースを関係者車両の通路に整備することでうまく流れができるようにし、車両の渋滞が起きないようにする
- ・関係者用の駐車場はきちんと確保することが必要
- ・小田原市条例で駐車場は建坪により台数が決められている。今まで出ている条件から概算台数を出し、今の敷地にその台数の駐車場ができるかを検討した方がよい
- ・市民会館では駐車場足りない
- ・駐車場を一つにまとめると、公演前後に混雑してしまう
- ・駐車場はないといけないのか。駅～ホールのルートに立ち寄ることができる

<その他>

- ・ピアノを収納する倉庫が欲しい
- ・緊急時に使用できる部屋、救護室、託児室などを計画する
- ・お客さんの中で具合が悪くなった人の為に畳の部屋があればいいのではないかという意見が出た。休憩室としてだけでなく、茶室として利用したりなど、多目的に利用できたらいいのではないか

⑧その他機能

- ・お金が戻るロッカー/トイレ汚いのは嫌/入り口ロビーに北条五代の展示コーナー設置
- ・シンプルな設備でランニングコスト削減/清掃しやすい施設
- ・ガラスで覆われているようなホールが必要なのか。ホールを利用する時には外光を遮断しているので、普通の照明を備えればよいのではないか
- ・クロークがあると主催者側の負担になるのでいらないのではないか。その代わりにお金の返ってくるコインロッカーを設置して欲しい
- ・現市民会館がなくなった時に、その跡地を練習室やミーティングルームなど、市民が一般的に使えるものを整備してはどうか
- ・WSでアートを制作し建物の一部に取り入れたい。具体的には寄木細工などという案があった。小田原の市民が参加した証しとして残したい

(2)施設規模

- ・予算とスペースに限りがあるので、建物の物理的なサイズが何m×何m×何mのものができるのかという話になる。これからは何をカットしていくかという話も出てくるだろう
- ・デザイン的な話も色々出てくる。立方体としてのサイズにも関わってくる

(3)留意事項

①防災

- ・防災対策/屋上を避難用に/津波対策/ホールの天井が落ちないように

- ・地震や津波等の災害に配慮し、観光客や観客が帰宅難民になった場合の対応ができる職員を配置したほうがよい
- ・自然エネルギーを活用、太陽光パネルを取り入れ、災害にも強いホールとする
- ・防災について、津波対応をどうするか。今の状態ではマンションの屋上か小田原城に行くしかない。例えばホールの屋上にある程度逃げられるようにするなど、対策を考えていければいいと思う
- ・建築するとき震度いくつという想定を。ここに来ると言われている震度よりも高くして欲しい
- ・防災について、最低3階の高さ。何かあったときに対応できる場所が必要かと思う
- ・防災、エネルギー的に独立するために太陽光パネルを。エネルギー的に自立できる避難場所に変更できるように

②省エネ

- ・再生可能エネルギーの有効活用、太陽光パネルの採用

③ユニバーサルデザイン

- ・利用しやすい障害者トイレ/車いすや足が悪い人などに配慮した設計/段差なし
- ・バリアフリーには十分考慮して欲しい
- ・全体的に弱者に優しいホールということを皆さんと話し合った
- ・大ホールにスロープが欲しい
- ・座席の間にスペースがあると動きやすい
- ・車椅子席は前方や後方ではなく、中間くらいにほしい。また、団体が鑑賞できるスペースがあると良い
- ・座席を外して車椅子席を設けた場合、床に段差があると不便なのでフラットにして欲しい
- ・階段など、暗いと判別が難しいので、照明を設けるなど段差が分かるようにして欲しい。また、滑り止めを設置して欲しい
- ・聴覚障がいのある方は、公衆のFAXがあると便利である
- ・エレベータの設置は必須である。大きな車椅子を利用する方もいるので、20名以上が乗れるエレベータがあると助かる
- ・エレベータについて、中の様子が外から見えるように透明だと助かる。また、文字で「満員です」といった表示がブザーと併用であると良い
- ・エレベータはわかりやすい場所に設置して欲しい
- ・トイレについて、多目的トイレが2つ程度あると助かる。また、男女共用が望ましい
- ・トイレを流す際のバルブの位置について1ヵ所ではなく2ヵ所あると良い
- ・トイレの入口は電動で開くタイプが良い
- ・トイレの大きさについて、車椅子の大きさが人それぞれなので、大きい方がいい
- ・和式や洋式の種別が分かりやすく表示されていることが望ましい
- ・トイレのスイッチの設置位置は統一してほしい。視覚障がいのある方は、場所が統一されていないと手探りで探さなければならないことになる
- ・字幕はあった方がよい

- ・要約筆記のスペースを設けてほしい
- ・入口にはスロープを設けてほしい
- ・事務室などもバリアフリーにして欲しい
- ・エレベータが停止した際の避難経路を考えてほしい
- ・地下駐車場があると雨などの場合濡れないので助かる

④景観

- ・門からどう見えるのかを重視し、どの程度のスペースを開けて整備するのかを早く決めた方がよい
- ・高さ制限などの様々な条例を認識させて欲しい
- ・できるだけ建物高さが低い建物としたい
- ・外からホールを見るという視点もあるが、高さがある施設という特長を活かして中から外の景色を観る視点もある。お城や海などのビューポイントを確保してほしい
- ・お城や緑という小田原のいいものがあるので、隣接しているという強みを生かしたものになれないか
- ・お城にあった小田原らしいものに、いろんな人を引き入れる、なごませる、まちづくりと併せながら、盛り上がりのあるホールを取り囲む景観をみつめて欲しい

⑤前庭

- ・これまでの検討のほとんどが建物に集中しているが、お堀から 30m セットバックして建物を建てるのであれば、前の広場を有効に使うことを考えた方がいい
- ・建物の中に全ての活動を押し込むというのは無理がある。広場を上手く活用し、施設内のウエイトを減らすことができるのではないだろうか。その議論がされていない
- ・現状の芝生の部分も有効に使わなければただの空き地になってしまう
- ・敷地の前庭について、城趾公園や野外イベントのことも考え、設計段階から検討していただきたい
- ・広場をつくり、ミュージックストリートのような活動が日常的にできたら良い
- ・広場にオープンカフェがでると良い
- ・屋外には、こもれびがあるような落ち着いた風景があったほうがよい。屋外で現代美術などの展示も可能ではないか

(4)全体イメージ

- ・神奈川県で一番良いホールを創ってほしい
- ・空間（スペース）をもっと大きく考えたい
- ・シンプルで使い勝手が良いもの
- ・30年40年に使用の主体となる若者の声を多に取り入れるべし
- ・ホールの大きさだけではない質への配慮
- ・高齢化による人口減少への対策
- ・首都圏に専用のホールが造られている、小田原に専門性的ホールは何が必要か
- ・公演によってデザインできる/各施設とも本来の機能を保ちつつ専用性を強めず他用途を/目的の変化に対応出来る施設

- ・観る側、演じる側、展示する側、人の動きを考えた機能
- ・おしゃれしてホールに
- ・管理や修繕のしやすさ。管理者の手間を減らし、ソフト等に力を入れるべき
- ・駅からホールまでのアクセスを整備し分かりやすく、地下街も有効利用（おみやげや情報発信の場）/商店街活性化のための歩いていく/駅からの仕掛け
- ・終演後のお客様の居場所空間を街にほしい
- ・建設コストの考慮
- ・全体的に整備コストを極力かけない
- ・コストの問題はあるが、色々な意見を出し合い、その中から一番よいものを選択し、あまりコストにこだわらないようにした方がよいのではないか。可能なものは造っていくという考え方で進めて欲しい
- ・小田原の木材をふんだんに使ったホールにしたい
- ・遊び心のある建物にしてほしい
- ・市民がお金をかけずに文化に触れられる事業や設備と、きちんと収益がとれる事業の両方とも行いたい
- ・“建築物としての市民ホール” デザインは重要
- ・「環境配慮建築」という言葉をいれ、そういう設計をして欲しい。そのために市民がコンペに参加できるようにして欲しい。第一段階はスケッチ画で参加でき、第二段階からはプロという方法もあるのではないか
- ・今後設計に入るときにコンペをやるのではないかと思う。今まで色々と議論を行ってきて、どういうものが最終的に形になるのかについて一番気になっていると思う。決定する段階で、市民が参加できないだろうか。前回のコンペ案、とくに外観に対して市民からの意見が多く出た。しかし、外観というのは個々の好みであり善し悪しはない。例えば市民の声をある程度考慮して審査員が意見を聞いてくれれば、最後まで市民が参加したことになるし、不平不満も少なくなるのではないか
- ・設計段階でも市民の声が反映できないか。どういう設計がしてあるか市民がチェックできないか
- ・極力地元業者に入ってもらい、内装や基礎部分などは小田原の業者にお金を落として欲しい

4.運営組織

(1)想定される組織概要

- ・ 専門家（学芸員・事業担当）の採用/人材の確保/アクティブに動ける人材/専門のプロデューサーが必要/プロを使うべき
- ・ 組織をよく考えてほしい
- ・ 舞台技術スタッフには、専門的な人が欲しい
- ・ ホールの運営には市民の力が必要
- ・ やりたいことがある市民が市役所職員に相談に来るといふ。まずは市民会館大ホール小ホール、けやきがあるので、そういった場所でやりたいことを実現させていくことが先決ではないかと発言した。しかし、そのためには運営組織を作らねばどうにもならない。今できることから始めていきたい
- ・ 芸術監督は予算があればいるに越したことはないが、予算がかかりすぎるのは問題。芸術監督がいるのならば、選出は公募にして欲しい
- ・ 運営組織は専門家だけでなく、一般市民も入れるように
- ・ 芸術監督、芸術アドバイザー、館長、ゼネラルマネージャーなど、肩書きをつけるときに明確に役割を決め、そういう人も入れて欲しい
- ・ 運営について、ひとことで言えば小田原ならではの運営ができたらいい。やはり友の会というのがあり、市民の文化に対する愛着がベースになった、皆で盛り立てて運営していこうという雰囲気が自然に現れる組織が理想的
- ・ そのための市民参加の形として、ボランティアという形では続かないのではないかと。段階的に有償と無償の階層が必要なのではないか。システムは市民参加といってもきちんとしたシステムをつくる必要がある。現行で文化サポーターがあるが人員的にきついのがあるので、今の現行のものを補強できるような運営ができないか
- ・ 運営に関して全体的に言えるが、専門家は必ず必要。その専門家と一緒に運営していく市民組織を作っていきたい。そのための友の会を作ったらどうか。例えば会費を集め、ホールの全公演を1割引で観れるなどの特典をつけたり、ホールの広報誌を作る。今の市民会館は情報が分からないので伝わりにくい
- ・ 運営について、市民が希望を出すことはできるが、実際に運営組織を形作っていくのは、優先ではないが専門家の考えが基本となる
- ・ 市民参加の範囲について、線引きしようという訳ではないが、組織運営については基本的には専門職が相応しい
- ・ 組織の中心は市役所
- ・ 運営組織の問題、市民が参加し自分たちが楽しむのだから年間1万くらいの高額の会費をとってもいいのでは。責任の所在は市の中に存在し市の人が最終責任を負うべき

(2)管理運営母体の考え方

- ・ 直営か指定管理者制度の導入か
- ・ ホール運営の為の財団を創っていただきたい

- ・運営のための財団をつくってほしい。今からでも既存施設の運営を行いながら、新しいホールの運営にあたって欲しい
- ・誰が運営するかについて、財団、NPO、民間の指定管理者など色々あり、市民の中でやる気がありホールの運営に関わりたいという方々も沢山いるが、どこまで関わるのかという想定が大事
- ・管理運営組織になるのであれば、建物全ての管理運営をせねばならない。赤字や器物破損、事故などの責任を市民団体でできるのか
- ・市民団体が運営組織になるのであれば、そこまで市民が責任を取らねばならないという話をした
- ・市民団体が運営するという話が出るとは思わなかった

(3)市民協働組織の考え方

- ・市民の主体的な参加活動とその仕組みの構築/ボランティア中心
- ・ボランティアに頼りすぎない
- ・ボランティア、身銭文化であってはいけない。かといって、市民の税金をあてにしているのではない
- ・市民が参加して何ができるのか
- ・小田原おもてなし隊のようなチームパフォーマンス集団をつくり、定期公演を行っていたらという声があった。実際に活動しているところがあるらしい
- ・市民参加として企画やレセプション、広報などの作成への参加か、ホールの管理運営組織として関わるか
- ・可児と北上の方式を参考にしたらどうか
- ・市民参加、市民参画などというが、市民が協働してやっていかねばならないということを決意した。参加ではなく参画という方向に持っていく。例えばこの検討委員会でメーリングリストを作るなど、そういうところからやっていかねばならない
- ・市民参加をどういう観点で捉えるのか、今後議論を行う必要がある

(4)運営

- ・ホールで黒字にするのは大変/収支バランス/ランニングコストはどの程度か
- ・人件費の確保/事業予算/財源の確保
- ・文化に対する費用を呼び起こす魅力ある文化活動を始める/身銭を切る
- ・全国規模の公演に対応
- ・友の会システム
- ・商店街との連携を考えていきたい。高円寺の例も参考にしたいが、小田原市の店舗にアート作品を置き、イベント化されるような形を考えている。そういったことを行わないと利用者が増えないと思う
- ・市民会館と今考えているホールを結ぶ商店街はお堀端通りになる。いろんなイベントを絡ませようとしても商店が少ない。施設でイベントなどをしないと難しい。また商店街との連携も難しいと思っている
- ・商店街と自治会にもう少し関心をもってもらえないか

- ・今後の文化政策が明らかでないので意見は分かれたが、文化政策が決まればそれに従って決めていくことができる。
- ・市民会館やけやきの料金よりは上がると思う。そこを市民がどう考えて使っていくのかを念頭に入れて欲しい
- ・学割を取り入れて欲しい。マロニエの音楽室が使われないのは利用料が高いから。利用者の裾野を広げて欲しい
- ・施設利用のルールは適切なものを、がちがちに縛らないで欲しい
- ・システムは市民参加といってもきちんとしたシステムをつくる必要がある
- ・スタッフとして活動していく人の制服や目印があると、それを身につけていることがステータスになっていけば無償でもやりたい人がいるのではないか
- ・文化活動ということに焦点を絞る必要がある。大人の遊び感覚であまり杓子定規にもの考えず楽しいことをやろう
- ・広義に小田原を告知するために、小田原全体のデザイン力を高め、幅広い広報を行うべき
- ・いかに効率よく運営するか。運営にはお金の問題がついてくる。それには稼働率を上げるのが一番手っ取り早い。運営に対する経済的な基盤と市民のニーズを取り込んだ企画の2つが運営の大きな問題だと思う

5.敷地条件

- ・敷地の問題、最大限に活かす方法を見つけて欲しい

6.課題・その他意見

- ・もっと現在の市民ホール整備に向けた動きを伝えていくべき
- ・スピードアップ
- ・運営組織はボランティアでは難しい。時間、お金、専門性が必要
- ・関わる人間の持つサムシングは大切
- ・今までの検討意見から、皆さんの意見は出尽くしたように思う。それよりもホール建設後にこの意見が持続し、意向を汲んでくれるかということと思う。それには市民の努力も必要
- ・皆さんにそれぞれの思いがあり、自らの技術や知識を市のために捧げたいという方々だと思う。この委員会が終わった後も解散するのではなく、各々が特化しているものを行政に渡せることがあれば嬉しい

7.むすびに

(1)振り返りによる考え方の変化等

- ・仕事をしながらの参加で大変でしたが、皆出席だったので、殆どの流れがわかり今迄の小田原では形だけの市民意見と専門家まかせの感がありましたが、今回は大きく変わってきたと感じています。
市民ホールに関しては、市民、専門委員、市職員の方々がひとつになって取り組めた意義は大きいと思います。
ただし、小ホールの事などは市民意見がうまく伝わらず専門委員全員が毎回来てくれている訳ではないので、前回と違う意見の場合、誤った方向に流れてしまう危険性を感じました。この様なことの無いように市側の方の更なる努力をお願いしたいと思います。
- ・市民ホール建設準備会の委員をやっている時にはあまり分からなかったいろいろな意見を持った人達と意見をかわすことが出来たのは良い経験でした。
様々な意見をどうまとめていくかが大事だと思います。
- ・これは以前からなのですが、各団体の連携がほぼなく、協力して何かやろーよとか言う考えもあまりないと言う事を今回の検討委員会に参加されていた方々と接してつとに思いました。また、みなさん小田原評定が好きだなーとも(笑)
みなさん話のまぜ返しと、市政に不満がある方が多かったり、事前の下調べなどもない方が多く、正直言って建設的な議論ができたかと言うと大変不満の残るものでした
そして、自分の分野は主張するが、他の分野には理解を得られない、我を通すだけの人が多くて・・・。
- ・初めて参加した時には「自分か参加していいのか？」と思った。資料は読み込んでいたが議論出来るレベルには達していなかったが、回を重ねるごとに分かってきた。
行政と市民が力を合わせないといけないということがよく分かった。
- ・平成12年3月(仮称)城下町ホール建設市民委員会設置以来、8年の歳月をかけ建設寸前にあった(仮称)城下町ホール建設は、平成20年5月「1億数千万円的设计費」を支払って中止。翌21年12月「市民ホール建設準備会」設置。23年3月同建設準備会により「市民ホール基本構想」策定完了。「基本構想」を基に、平成23年7月「市民ホール基本計画市民検討委員会」設立。「運営(ソフト)及び施設(ハード)」内容の具体化を様々な立場から市民の意見を集約。次の専門家からなる「専門委員会」へ「基本計画(案)」として引き継ぐべく2回のレクチャー・視察を含む10回の活動を経て今日に至る。しかし、10回会合を経た今日「達成感」を感じない。何故か!参加する前は「市民ホール基本構想」を基に内容を検討。実現性のある内容に各項目を絞り込むを目的とする「市民ホール基本計画市民検討委員会」と思っていた。しかし、結果は「基本構想」の復習会に終始した。市民検討委員会諸氏の、事前配布資料「市民ホール基本構想」の内容確認が十分されていれば、同じ内容・項目は既に「市民ホール基本構想」に述べられていることに気づき、この「基本構想」を「ではどうするか」に検討が進展したはずである。・・・何回か進め方おかしい!のシグナルを出したが声を大にしな

った事を反省している。

- ・市民として、自分達の住む街を、良くするのは、市役所の職員でなく、自分達なのだと感じた。また、市民の中に、いろんな活動を積極的にされている方々が多くいることを知った。

今後は、もっと市の施設の利用、事業に参加したいと思う。

市民ホールに対し、具体的な設備等について、提案はできないが、ひとりでも多くの市民が利用する“ホール”になることが一番である。

- ・市政が市民意見を求める事は大切な事と思う。コンペティションで入選したモノを建ててしまったら使いものにならない、ホール設計は小田原市民を愚弄するものだった。やり直して良かったと思う。

- ・あちこちの劇場やホールはたくさん知ってますが、「市」のもののことを考えたり、参加したことがほとんど無かったので、いいきっかけになりました。

考え方というか、ずーっと温めるだけ温めて終ると思っていた企画を実行しようという気持ちになれました。ありがとうございました。

- ・ホールが市内にあることの意味や、文化自体について考えるきっかけとなりました。また、このホールだけでなく、周辺のホールと役割分担する、という考え方を学びました。小ホールの議論をとおして、それぞれの立場によって、求めるものが違い、様々な考え方があることに気づきました。

- ・10回の活動にすべて参加致しました。40名を超える一般市民の参加は、建設に向けての市民の意見、要望を出し合うという所期の目的は達成されたものと考えます。「城下町ホール」の段階から関わってきた者にとっては、特に施設、設備に関しての考え、理解度に歯がゆいものを感じましたが、回を重ねる毎に参加者の理解度が進んだ様でした。

- ・この委員会に参加されている人の中には興味本位から参加した人もいるでしょう。又、仲間としてこのようなホールという決めて参加した人もいるでしょう。私に見えなかったのはこの人の後側です。この人はどのような人たちと関わりをもったのか又、このホールが建ってからどのようにつながっていくのか。

それは、その人が過去に行なってきた仕事をもっと知っておきたいと思います。

個の意見だけを通すことだけしか考えておらず、それでは次のつながりがみえないのです。

(2)振り返りによる意見等

- ・展示については、三ツ山委員が入られたことによりホールと文化創造の幅が広がったと感じています。

今後は運営が大事になってきます。今回まとめられたホールや、大スタジオのあり方はどのように運営されるかで使用頻度が大きく変わることでしょう。

使用料金を下げる為にも建築コストはシンプルな作りにして、極力下げるべきです。箱物が出来ても使う人がいなくては意味がありません。運営も今迄のような貧弱な予算では何も出来ません。1%の文化予算とすれば6億円。最初からそれは無理とは思いますが、維持管理、人件費を除いた分で最低2、3千万円の予算がなければ何も始らないと思います。市民の皆さんに本当に役立つ文化創造施設であることを理解してもらって下さい。勿論予算を承認する議員の方々にもこの施設の可能性と重要な事を理解をして頂きたいと思っています。これまでも可児市のホールへ視察に行かれたり見識の高まっておられる方も多くと思いますが、様々な場面でホールの事を考え身近に感じてもらいたいと思います。その為にも広報が大切です。様々な手段、方法を考えていく必要があると思います。文化ビジョンの委員会にも出席しましたが、委員の方もホールの委員会に参加して頂ければ更に良かったと思います。もっと現場に添った論議が出来たかもしれません。小田原、それも三の丸、お城のそばに作るホールです。市の職員の方々にお城だけでなく是非、大外郭を一流の説明員をつけて歩いて頂きたいと思います。そうすれば、小田原を観る視点がより大きくなり、変わってくると思います。小学校の子供達にも6年間のうち、1～2回は大外郭を歩き、小田原の歴史と文化、その奥深さ、広さを感じてほしいと思います。タテ割行政ではなく、ヨコのつながりのなかで教育委員会も巻き込みつつ実現して下さい。子供時代に経験することは、本当に大事です。ホールは必ず赤字になります。それを上回る成果、その為にこのホールは未来の子供達への投資と考えて下さればと思います。景観は三の丸に作るホールです。当然、高さをおさえる必要があります。防災の為に高くすることは反対です。周囲に配慮し調和のとれたホールを望みます。まだまだホール完成迄に5年もかかります。この動きを止めないよう今後共もどうぞ宜しくお願い致します。

- ・運営についての検討が十分に行われなかったような気がしています。準備会の時も時間が足りなかったように感じました。もう少し突っ込んだ検討が必要ではないかと思えます。金額で使えないようなホールにしてほしくありません。

- ・市民ホールとは言え、町の一施設です。市民ホールに人を集めるのではなく、街に人を集める事を第一義にして頂きたい。**【ホール】**とするのですから、まずはホールが重要で展示場やカフェなどは重要度はほとんど必要ないと思っております。むしろ周辺のカフェや画廊などが無数にあるのですから、そちらと結びつけられるようなイベントをすればよいと思います。あまりにも立派すぎる展示スペースは市民ホールのみで完結で終わるでしょう。また、稼働も大して見込めないどころか、そのような周辺の施設がわりを食いかねないと思います。運営組織においては市で色々と活動されてる団体の中からジャンルや年齢が片寄らないようにした方々に参画いただくことを望みます。その際には小田原市や市議など、あま

り力のある人の参画は望みません(アドバイザー的な参画を望みます)(文化ビジョンへは片寄りを感じます)

イベントなどは【小田原中心市街地】だけではなく、置き去りにされてる感がある小田急沿線や橋など【小田原】でやるイベントができればと思います。

- ・各委員に協力してもらって新ホールを使用したいと考えている団体にどのようなホールにしたいか?アンケートや意見を聞く機会を作る。

市民会館の利用者に意見を聞いて改善していく団体の設立。まず、ここからスタートして、徐々に地震の時のマニュアル制作やトイレの問題を解決していく。

ホールでどのようなことをしたのか記録を残していつでも利用出来るようにする。

- ・今回の「市民ホール基本計画市民検討委員会」は「大ホール・小ホール・展示場及び各関連施設(以下“文化施設”に総称)」建設に際し「基本計画(案)」策定を目的として発足した。然るにこれもできる様に!・あれもできる様に!の希望・要求項目は個々にはそれぞれ意味があり最もである。しかし、資金・敷地は無限ではない。“ではどうするか!”に踏み込む問題意識なく、止め処なく希望と要求に終始。次の「専門委員会」に各要求項目の絞込みを託す結果となった。

本来、計画の三施設にそれぞれ最小にして最大の機能を付加した場合、現在の予定地(現交渉中の土地を含め)に三施設は収まるか否かの検討も実態は見え、基本計画を進めた際、予定地が原因(土地不足)で計画の縮小を余儀なくされる事等、先を想定した対応が見えず・・・後々問題にならなければ良いかと危惧する。

本来ならこれらを想定して「三施設の相関関係」を検討しておく必要を感じる。検討内容によっては何らかの施設は他の敷地又は、他建物の一時使用等、計画に柔軟性と幅のある内容を検討しておくべきと考える。(予算の関係で、将来に追加・増設等を考慮して)又、資金面も同様で、市議会でも「城下町ホール」の経験と現在の世相を鑑み、建設費は「城下町ホール」時の予定額以下にすべきとの意見が大勢を占めている。

然るに市民検討委員会の実態は、提案の検討整理なく全てが採用されるが如き状態となっている。資金面を危惧する意見は現状皆無に近い、

「敷地・資金には限りがある」と思考する意見は少ない。このまま市民検討委員会を終了した場合、此の市民検討委員会の目的は何だったのか、今だ自問自答の中にいる。

その意味で「基本構想」に記載の「基本理念」及び「基本方針 7項目」を再読。

結果、私見ではあるが実態からかけ離れた又は、提案の実施にはどのような問題があるか等、検討が不十分なまま記録が残されている「気になる提案」を記載させて頂く。

【気になる提案】

其の1

“託児サービス”・・・本件は既に事務局が調査済みの他施設の“託児サービス”の実態を市民検討委員会に公開すべきと考えます。幼児を預かる難しさ・事故発生時の責任の所在を認識した上で、「ではどうするか」の検討不十分・・・故に記す。幼児を預かるリスクを再考する必要ありと考える。年齢制限有無不明。もし、ゼロ歳児の預かりはないと思うが、あったら自信ある?

其の2

オープンカフェ・地産カフェレストラン・・・前述の「基本方針 7項目」と照合する

と、本来の目的から逸脱した過大提案ではと感じる。・・・打ち合わせの時、気軽にお茶でも飲みながらのカフェなら、現市民会館一階ロビーの一角にスタンド式カフェコーナーを作り“試行”し反響を確認するのも将来に役立つと思う。何にしてもこの案採用の場合は、文化施設に隣接するも、その管理は独立させた施設とするを提案する。又、出来れば近隣商店の計画参加を呼びかけ役割分担するを提案したい。

更に、小田原特産の云々・・・観光会館？・・・併設するほど敷地に余地はないと思うが。

其の3

“催しものがない時も賑わうホール”・・・案としてロビーをオープンにする等の提案があるが、防犯（テロ）対策は如何にするか提案者は考えたか疑問。・・・地下鉄サリン事件をお忘れか！現在の我が国は以前と異なり安全な国ではない。・・・本来はホールの賑わいが目標で、オープンロビーの賑わいは本末転倒。企画力の問題である。どうしても場合は視察した「富士見市民文化会館のレイアウトを参考にすべきと考える。大ホール・マルチホールが休止の時はそれぞれ閉鎖、中央部エントランスロビーのみ開放のシステムが参考になると考える。また、「24時間利用できる施設！」提案者の提案意図を聞きたい？更に「子供達が何時来ても遊べる施設！」等“遊園地？・児童館？”何かへんだ！

幼児（園児）・青少年等、それぞれに合った催しを計画するのが市民が目指す「文化施設の基本理念」と思うが「24時間利用云々・・・」「子供達が何時来ても・・・」と言い。どうも思考が逸脱している様に感じるのは私だけか。

其の他

平成22年11月8日建設準備会資料、可児市文化創造センター館長兼劇場総監督「衛紀生」氏の資料の再読と、市内各所に点在する市関係施設・県関係施設（事務局配布済み）を確認し、「使い方・仕分け」をすることも必要と感じる。全てを今回の施設内に取り込むことは無理、現実を直視すべきと考える。

また、運営管理（ソフト）は新「文化施設」が完成しないと出来ない問題ではないはず。

「ああしてみたい」「こうしてみたい」を提案した諸氏！今からスタートし試行することを提案したい。

最後に、小田原市が建設を進めている「文化施設」は前述のように高い授業料（設計料）を支払い建設を中止。・・・結果、全国文化施設関係者及び、現市民会館ホールを使用した関係者の多くが「小田原は・小田原市民は」さて「どんな文化施設を作るか」大きな関心をもって注目している。完成後・・・「他市既存の文化施設と特に変わりなし」の評価となるか。

「なるほど設計料を支払い建設を中止しただけの事はある。さすが！」の評価となるか。我々は、此のことを再認識し内容を「ではどうする・ではどうする」を繰り返し検討すること関係者各位再確認すべきと考える。また、この施設完成の暁には、数十億円の借財を次世代市民に託す事実を忘れてはならないと、感じる今日この頃である。

- ・今回は自主参加だったが、委員の年代層が高かったと・・・。中・高生の意見、子育て層の親の参加の声も必要だったのではと感じる。
- ・専門委員諸氏は本当に御苦勞だと思いますが、今迄の小田原の文化活動の有り様、小田

原のレベルを掴んでいないと思う。例えば、マロニエやけやきといった何の特徴も持たず、活用仕切れていない数多くの建物を改造して活用するといった。

市来委員の発言だったと思いますが、小劇場や発表会等、それぞれの地元に近い場所で実行可能な場を整えて、新しい小ホールは音楽（アコースティックの優れた）に特化する様な、創造といった概念を重視して戴きたい。

新しいホールを建てることは、文化的な創造活動、重要な文化活動であることを認識して、行動して戴きたいと思う。

特徴ある個性的な場の実現を望みます。

- ・ 皆さんいつも同じ意見の繰り返しで、何回もやる必要なかったのでは？と。もう具体的に動いて行きましょう。ホールの中に余計なものは不要！！「いいホール」という箱を作ることに重点を！！
- ・ まちづくりに重要な点のひとつとして、小田原市に何かを提案してくれる建築になってほしいです。
- ・ ホールを常々使用する側と、鑑賞を主とする側とはホールに関する要望も異なる事は当然の事と思います。使用する側からの要望を主に述べさせていただきます。

【施設・設備関係】

・ 「大ホール」

公共ホールの建設は、演奏、演劇、集会等が主な使用を考慮しての設計としてほしい。

1. 形状はオーソドックスなシューボックスが望ましい。
2. 音響については1を満たしていれば、音響設計は良質なものがなされると考える。
3. 客席数は1, 200席程度あれば、小田原近隣の使用でプロの公演、アマチュアの活動、集会等の要件を満たせると考える。
4. 舞台は、可能な範囲で広いスペースが必要。（例えばオーケストラが100名と合唱団が200名収容出来る広さ）
5. 舞台への装置等の搬入路はできるだけ短く、適度な広さ（幅）があること。
6. 楽屋と舞台の距離もできるだけ短く、同一平面にあること。
7. 楽屋には和室との併用ができる部屋が一つは必要。（舞踊、邦楽等の使用）
8. オケピットは、本格的なオペラ上演は、小田原近郷での可能性（経済的な採算性）を考慮してその必要性を感じないのが現状ではないでしょうか。

・ 「小ホール」

1. 小ホールは大ホールの機能を縮小した施設とすべきものと考えます。
2. 客席は固定椅子で、300席が適度な規模でしょう。
3. 多目的な使用のため、平土間での可動椅子は演奏、演劇には不適當です。
(床の振動、椅子のキシミ音等が現在の技術で完全にクリア出来るでしょうか?)
4. 平土間での使用に対しては、市民検討委員会での案の第2小ホールは、リハーサル室や展示施設としての使用に最適と考えます。（規模は収容人員100～150名程度の広さ）
5. 平土間としての施設は、けやき、尊徳記念館、マロニエ等に存在しており、あえて小ホールを多目的使用の平土間形式にする必要性を感じない。

(現在、西湘地区には本格的な小ホールが存在していない。南足柄市の小ホールは可動椅子で歩くと床が振動し、下からせり上がった椅子は揺れてキシミます。それでも稼働率は74%です。近隣地区に本格的な小ホールがないため、仕方なく使用しているのが現状です。小田原市に本格的な小ホールが完成すれば、近隣からの小コンサート、演劇、発表会、小集会等の利用が可能であり、稼働率はアップするはずです。

・「展示施設」

市民ホールに展示施設が共存することは、合理性からは否定しないが、ホール機能と展示機能とは全く別のものと考えます。限られて敷地で一つの建物の中に二つ施設を作る事は双方の機能が相殺されかねません。ホール内のロビー、「第2小ホール」や会議室等を利用すれば展示は可能でしょう。富士見市民文化会館の展示施設は、小規模ながら参考になりましょう。将来的には、本格的な美術館の建設を望みますが、緊急避難的にとりあえず、現在使用していない城内高校を県から借り受けての展示施設としての利用は如何でしょうか。

・「その他の設備」

1. 楽屋、控室、シャワー室、託児室、ミーティングルーム等機能が十分な施設を。
2. ロビーは、休憩時、終演後の社交の場です。来場者が寛げる施設としたい。
3. 館内に軽食の取れるレストランが欲しい。特に出演者はリハーサルの合間に短時間で食事をとる事が多い。(町へ出での食事の時間は取れないため)
採算性に問題はあるが、常時一般市民が立ち寄って食事ができる様にしたい。
終演後の打ち上げ等はそこで出来れば、街中に移動しないで済みます。(貸切の部屋があればベスト)
4. 女子トイレは男子の3倍程度が必要。休憩時に次の開始に十分な時間の余裕が必要です。
5. 駐車は出演者、来場者を含めて出来るだけのスペースが欲しいが、敷地の広さもあり、立体を含めて検討してほしい。
6. ティンパニー等オーケストラ所有の楽器保管庫を是非お願いしたい(有料で可)

・「運営組織や事業企画など」

公共ホールは、独自の採算で経済的に黒字を出すのは極めて困難な存在と考えます。貸ホールを主とするなどは論外です。しっかりとした運営組織を立ち上げ、人件費を極力抑えて、可能な限りボランティアの方々に協力を願う運営がのぞましい。ホール運営の最高責任者の選出は大きなカギとなりましょう。年間を通して市民の多様なニーズに沿った企画やホール独自の市民文化を育てる企画を盛り込むことが大切です。要は「稼働率」をアップし、常に文化的な活動としての拠点にしなければなりません。幸い小田原市の市民文化祭は2ヶ月にわたって開催されています。他市でこれだけの期間開催しているところは稀でしょう。素地はあるはずですが。運営組織がリーダーシップをとり、市民文化のさらなる向上発展の中心的な存在としての運営を目指したいと考えます。

小田原の新しい市民ホールが、施設機能、組織運営について、全国のモデルとなるよう努力してまいりましょう。

- ・新ホールの場所と商店街との関わりを考えたときに高円寺のように商店が2,000も

あり、商店街も20もあるような、人がかかわってできるモノがある地と違い、小田原は、駅前が中心が東通り、お城通り、ダイヤ街、錦通りと商店の集まり。新ホールへのお堀端は店が少ない。

はたして、新ホールと商店街との関わりができるのだろうかと思っている。桑谷さんとは、この部分でしっかりと小田原の場所を見ていただき可能性があるかどうか、話したいと思います。そして、商店街の活動をしている人達の関わりが新ホールを求めているかどうかです。

新ホールだけが活動しては、三の丸でイベントを行っているものを箱でつくったというのと同じになってしまう。東通りや、おしゃれ横丁までとの関わりと人の回遊性をつくっていかねばと思います。その仕組みをできるかどうかですね。

8.関連資料(かわら版等)

- (1)WS1 ワークショップかわら版(「オリエンテーション+基本構想のふりかえり」)
- (2)WS 号外 ワークショップかわら版(「市民会館のいいところ、なおしたいところを探そう！」)
- (3)WS 号外 ワークショップかわら版(「キラリ☆ふじみを見学しよう！！」)
- (4)WS2 ワークショップかわら版(「市民ホールに期待される事業・活動を考える！」)
- (5)WS3・4 ワークショップかわら版(「市民ホールに求められる諸室や機能を考える①②」)
- (6)WS5 ワークショップかわら版(「市民ホールに求められる諸室や機能を考える③」)
- (7)WS6 ワークショップかわら版(「市民ホール 運営や組織を考える」)